

現代サッカーにおける攻撃面でのサイドバックの重要性

岸本 淳佑 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 松田 保

キーワード：サイドバック、オーバーラップ、パス本数

1. 緒言

90年代のサッカーの攻撃の起点となっていたのは主に真ん中（ボランチやオフエンシブハーフの1.5列目と呼ばれているポジション）の選手だった。現代サッカーではサイドがその起点となっていると考える。

そこで筆者が着目したのは、サイドバックが攻撃参加することにより数的優位をつくり、サイドを崩すという攻め方が多くなっていることである。

攻撃に転じるうえでサイドバックでのタメや、サイドバックのポゼッション能力などの向上が注目されている。パスの成功率、クロスの本数、オーバーラップなどが攻撃面で影響していると考えられる。

2. 研究方法

研究対象の2006年ワールドカップドイツ大会、日本の予選リーグ3試合、イタリアの決勝トーナメント3試合、2010年ワールドカップ南アフリカ大会、日本の予選リーグ3試合、スペインの決勝トーナメント3試合の映像を再生し、分析項目にそってデータを記録する。

3. 結果・考察

1) パス

ドイツ大会のイタリアの総パス本数は、166本、日本は174本、南アフリカ大会のスペインは197本、日本は136本であった。スペインは総パス本数の数からもわかるように、ポゼッションに積極的に参加し、攻撃の起点になっていたと言える。

パス成功率もドイツ大会のイタリアは81%、日本は66%、南アフリカ大会のスペインは86%、日本は71%と、日本と各大会の優勝チームを比べると大きく差がある。やはりスペインが長けていた。

2) オーバーラップ数

ドイツ大会のイタリアのオーバーラップ数は23本、日本は28本、南アフリカ大会のスペインは29本、日本は22本であった。

イタリアの戦術は身体能力の高いFWにボールを集め、攻撃を行う戦術であったため、オーバーラップ数が少なかったのだ。

日本は僅差での勝負が多かったため、オーバーラップの回数が少なかった。

4. まとめ

この研究を通して、サイドバックが攻撃参加することは重要である。サイドバックが起点となり正確なパスを配給することや、前線の選手を追い越し、攻撃参加することでそのチームの攻撃力にプラスの影響を与えている。しかし、南アフリカ大会での長友選手の守備面での役割の重要性を考えるに、攻撃面のみで分析するには限界があることがわかった。

5. 参考文献

- ・ 松田裕貴 (2007) イタリア代表フルバックの攻撃に関するプレー分析
- ・ 宝島社 (2011) 長友佑都 100人の証言